

2022年 11/7  
 (令和4年) Vol.125  
 発行日：5・15・25 旬刊

# アジア経済新聞

【発行元】  
 東京都港区北青山 2-7-20  
 猪瀬ビル2F  
 アジア経済新聞

国際 国内 政治・経済 環境・水 気候変動 エネルギー 都市開発 建設 交通 物流 テクノロジー 通信 先端技術 オピニオン

## 習近平政権、長期1強支配 巨竜はどこへ向かうのか

5年に一度開かれる中国共産党の最も重要な会議、党大会で習近平総書記の異例の3期目が決まったが、権力の一極集中に党内の一部党員から反感を買い、危うさを指摘する声が強まっている。改革・開放政策を主導した鄧小平氏は個人崇拜を禁止し集団指導体制と任期制を取り入れて歯止めをかけてきたが、習総書記はそれを意にも介さず、まるで終身体制を維持するかのような新体制をつくり上げた。いつもの党大会なら党総書記と国家主席の習近平と首相の李克強が交代するはずだった。しかし、今回は違った。李国強などライバルたちを追い落とし3期目が決まった。事実上の終身体制を打ち立て、独裁政権がスタートした。習氏の長期1強支配の下で人口14億人の巨竜は一体、どこへ向かうのか。

### 権威を自らに集中

習氏は党大会で、これまでの2期10年を振り返った。権威を自らに集中させた体制のもとで、歴史的な成果が得られたと言いつつ、ゼロ・コロナ対策で国民から不満が高ま

っている新型コロナ対策、香港の民主化運動の弾圧についても自分を誇示するかのようにつつ、大きな成果を収めたと強調した。5年前の政治報告では中国の特色ある社会主義思想という言葉が盛り込まれ、頭に習近平の名が書き込まれた。国の憲法より上位

にある党の規約に個人名がついた思想が入ったのは毛沢東以来のことだ。毛沢東が始めた「文化大革命」は1000万人の死者を出し、毛に権力と権威が集中した反省から共産党が固く禁じてきた個人崇拜が今息を吹き返しつつある。



欧米のメディアから「皇帝」と呼ばれるようになった習氏。